

「教育相談だよ」

第1回

新年度あるある！
子どものお試し行動

「今度の先生はどんな人？」

「今度の先生はどんな人？」「やさしい？」「どのくらい怖い？」……子どもたちにとっては、新年度の最大の関心事です。初めて会う先生への不安からか、お試し行動をする子どもがどの教室でも必ず何人かいます。

「前のクラスでは〇〇していました」と何かと前クラスを引き合いに出し、新任の反応をうかがうタイプ。「プリントを配りましょうか」と何かと気をきかせ反応をうかがうタイプ。友達と騒いだりしながら反応をうかがうタイプ。授業中に「トイレに行ってもいいですか」とわざと禁止事項をやって反応をうかがうタイプ。
「新学期あるある」ですね。



宮崎県公立小学校養護教諭
宮内 英里子

みやうち えりこ 生徒指導困難校と呼ばれた中学校に勤務したことをきっかけに、大学院で教育臨床心理学を学び直しました。子どもたちの問題行動に悩む担任支援に情熱を注いでいます。ガイダンスカウンセラー。

期待と不安の対象である「今度の先生」をお試し行動で評価し、先生に適応しようとする、子どもなりの知恵かもしれません。特に「何をしたら叱られるか」「どのくらい怖いか」を早く知ることは、子どもにとってとても重要です。少し日にちがたつて新任の学級経営の方針がきちんと伝わり始めると、お試し行動も陰をひそめてきます。

ところが！ 気をつけましょう。新学期に先生にお試し行動をしてくる子どもの中には、そのまま「エスカレート現象」を起こし、今後、先生を悩ますことになり子どもがいるかもしれません。

自己紹介を兼ねて

私は、養護教諭をしながら長年教育相

談を担当しています。「なぜ養護教諭が教育相談を？ 健康相談じゃないの？」と思われるかもしれません。

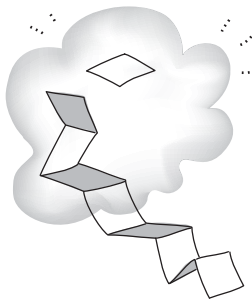
私が教育相談にかかわることになったのは、生徒指導困難校と評判の大規模中学校に赴任したことがきっかけでした。そこには、毎日あふれるほど保健室に押し寄せ、教室に戻ろうとしない生徒たちがいました。私の怒鳴り声にもどこ吹く風。これまでの経験、常識、中学生像が音を立てて崩れていきました。この生徒たちをどう理解すればいいのか、どう対応すればいいのか、当時の私はまったくわかりませんでした。そのことから、大学院に入学し、教育臨床心理学を学びました。そして復職してから、養護教諭をしながら教育相談の担当をさせていただいている、というわけです。

今回の連載では、先生方に向けた「教育相談だより」をメインにして、その内容の解説をしていきます。「教育相談だより」の発行は、私が特に力を注いでいる学級担任支援の一つです。この連載でも、発達の問題、愛着の問題、保護者の問題、

不登校の問題など、その時々々にタイムリーな内容を取り上げていきたいと思っています。読者の皆様のお役に立つことができれば幸いです。

エスカレート現象とは

先にも書きましたが、お試し行動をすること自体は新しい先生を知ろうとする子どもなりの知恵であり、必ずしも悪いことではないと思います。しかし、なかには単純なお試し行動からしだいに「先生の指示に従わない」「静寂をつぶす」「やさしい先生だと授業態度が悪い」「不要な声を出す」「勝手に離席する」など、クラス全体の雰囲気壊す行動にまでエスカ



レートする子どもがいます。エスカレート現象です。

さらにそのエスカレート現象に同調する同じタイプの子どもや、おもしろがる子どもがクラスに何人かいると、それらの子どもにクラスの雰囲気が左右され、早い段階で秩序がなくなってきます。そして担任は非常に困ることになります。

エスカレート現象はなぜ起きる？

「そんなエスカレート現象を起こす子どもには、発達の問題があるのでは？」と思われるかもしれませんが、エスカレート現象は、発達の問題よりも「愛着の問題」を抱えている子どもに多い特徴だといわれています。

愛着の問題を抱える子どもは「人は自分にやさしいものだ」「人は自分を助けてくれるものだ」「自分が失敗しても許してくれる」というような、人への信頼感や人との絆が育っていません。ですから、初めて会う人にはお試し行動をして、自分への脅威度を知る必要があるのです。

新しい先生にお試し行動をするのは、期待よりも不安感のほうが強いからです。

そして、愛着の問題が強い場合、お試し行動の結果、「今までよりやさしいな、ゆるそうだな」と思ったらとたんに、「もっとやさしくして」「もっとゆるくして」と、行動がエスカレートしていきます。エスカレート現象は、愛情欲求のエスカレート^①なのです。

また、少し厳しい先生や男性の先生の前だと態度を変えるのも、愛着の問題を抱える子どもの特徴です。

エスカレート現象を起こさせないために

複数の子どもが同時にエスカレート現象を起こせば、あつという間にクラスに秩序がなくなります。そうなる tous べての指導が、後手^②になり、クラスの立て直しは困難を極めることでしょう。

まず重要なのは、前年度からの引き継ぎの段階で、愛着の問題を抱えていそうな子どもを把握しておく^③ということだと思います。しかし転勤してきた直後などは、引

き継ぎをされてもよくわからないこともあるかもしれません。

そこで、最初からお試し行動をして子どもにも注目します。愛着の問題を抱えていそうな子どもやお試し行動をする子どもが複数いることが確認できた場合は、クラスの目標やクラスのルールを担当が設定します。先手をとって最初の主導権をしっかりと担当がにぎる^④ということ。決定権も、担当が持つことをわかりやすく示します。子どもたちに目標やルールを決めさせる場合は、クラスが落ち着いている状態のときに行うとよいと思います。

次に、毎日どこかの時間で、それらの子どもと担任とが、一対一^⑤になる機会をつくります。愛着形成はまずは一対一の関係から始まるからです。目が合ったらグーの合図をするだけでもいいのです。一対一の関係の中で、先手^⑥で「今日は〇〇を頑張ってみて。できたらほめるから」とか「さっきはよかったね。次も同じようにお願い」のように、次につながる言葉をかけるのもいいでしょう。

愛着の問題を抱えていそうな子どもが複数いる場合は特に、一対一の機会をいかにとらえるか^⑦、先手の支援になるような言葉かけができるか^⑧ということが、その後のクラスの雰囲気や左右していきます。

また、担任一人では行き詰まるときがあるかもしれません。管理職、特別支援コーディネーター、養護教諭、通級教室の担当など、支援が得られそうな職員にはあらかじめ状況を知らせておく^⑨とよいと思います。これも先手^⑩の一つです。

私も経験しましたが、単純なお試し行動からエスカレート現象を起こすくらい愛着の問題が強い子どもは、叱っても効果なし、ほめても効果なし^⑪で、どう対応していいかわからなくなります。

【一対一の対応】と【先手の指導】の二つが、愛着の問題を抱えた子どもにもエスカレート現象を起こさせないポイントです。

〈参考文献〉

米澤好史(二〇一五)『愛情の器』モデルに基づく

愛着修復プログラム」福村出版

教育相談だより

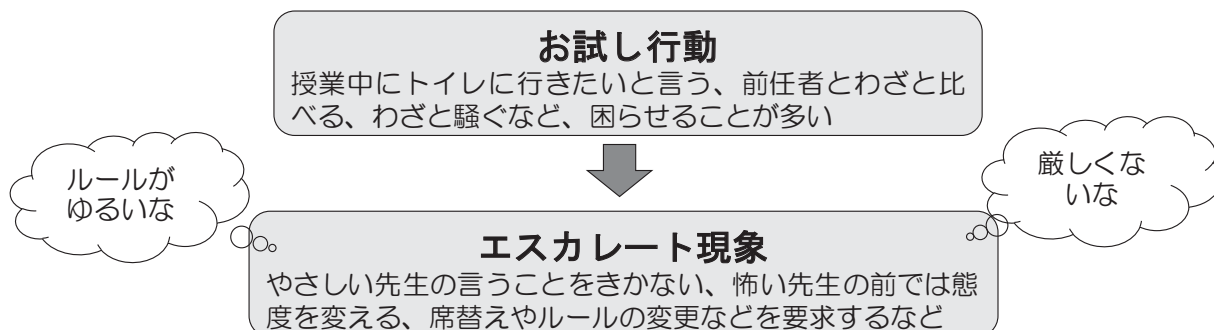
年 月 日 No.

新年度あるある！お試し行動

「新年度あるある」の1つに【子どものお試し行動】があります。新しい先生への期待や不安から、先生がどんな人かを試すために、わざと困らせることを言ったりしたりします。



お試し行動をする子どもの中には、昨年度と比べて先生がやさしいとか、ルールがゆるそうと思ったら、困らせる行動をエスカレートさせてくるタイプがいます。【エスカレート現象】です。特に同じクラスに同じタイプの子どもの複数いると、お互いに影響し合い、集団でさらにエスカレート現象を起こします。クラスに秩序がなくなる原因の1つになります。



お試し行動やエスカレート現象を起こす子どもは“愛着の問題”を抱えていることが多いです。人に対する基本的な信頼感や安心感が育っていないので、“適切なかわりが苦手”です。新しい先生に対してもお試しをして、まずその脅威度を知りたいと思うのです。



愛着の問題を抱える子どもは、叱れば反発、ほめれば調子に乗るなど、“叱る”“ほめる”が効果的ではないことがあります。お試し行動をする子どもに対しては、エスカレート現象を起こさせないように【1対1の対応】で【先手の指導】をすることが効果的です。

【1対1の対応】と【先手の指導】とは

本人と先生の“1対1”の場面をつくります。そして本人ができそうなことを“先に”指示します。それが実行できたら「助かりました。ありがとう」とほめます。愛着の問題がある子どもは1対1の場面になると素直に言うことを聞いたり、話ができることが多いので、問題を起こす前に先に声をかけておくことが効果的なのです。

〈参考文献〉米澤好史『「愛情の器」モデルに基づく愛着修復プログラム』